

令和7年度「かなざわ幼児教育みちしるべ」活用推進事業 「結果報告書」

施設名 田上こども園

【連携小学校】

金沢市立朝霧台小学校

【連携幼児教育施設】

済美幼稚園、太陽丘こども園、田上こども園

【主な取り組み内容・経過】

※別紙1（内容と参加人数）別紙2（アンケート結果）別紙3（写真）参照

【子どもの姿】

No.16 「年長さんを迎える会」 学校へ向かう途中に「1年生になったら」を歌い始めたり「小学校たのしみ～」と会話等からも期待が膨らんでいる様子である。到着してからは緊張する面持ちだったが、卒園児を見つけ手を振り笑顔がこぼれる。緊張しながらも楽しんでいる様子である。園へ戻ってからも「1年生優しかった」「図書館もみてきた。いっぱいの本やった」「小学校行ったらパソコンもらえるって本当やったんやね」等感じたことを伝えあう姿があった。

就学時健診とは違った新たな気づきもあった様子で、小学校生活のイメージを持つことができたことと、就学への期待がさらに膨らんだように感じた。

【保育者の思い】

No.8「小学校と3園合同意見交換会」 学校公開を参観し、後日に1年担任と年長担任が意見交換をする初めての機会をもった。参観しただけではわからないことも質問を通して1年担任の思いや考え、工夫などを知ることができた。新たな気づきが多く、就学以降の見通しがもてた。

No.10「カフェミーティング」 講義後、グループで意見交換を行った。少人数だったので具体的な話し合いが出来て充実した時間だった。互いの理解が深まったように感じた。

No.12「幼児教育センター主催の小学校1日体験」 授業を計画し体験したことで新たな気づきがあった。また、卒園後、子どもが大きく成長していることを実感した。

【課題】

- ・新たな連携接続が今年度始まったが、次年度以降の継続も課題の1つである。連携接続の良さに目を向けてともに進めていきたいと思っている。

- ・人事異動による継続性が大きな課題である。単年度等で年長担任が変わり、小学校側では校長や教職員の学校異動や1年担任の異動がある。1年間の取り組みが翌年へとそれぞれが引継ぎ継続していく工夫が必要である。

- ・カリキュラムの検討。

【令和7年度の活動の成果・考察】

1. こども園と幼稚園の連携について

小学校との連携接続を考えるにあたり、校区内の幼児施設がそれぞれで行うのではなく共に連携接続を行うことが良いと考えた。しかし、こども園同士は元々交流があったが、同じ地域にあっても幼稚園との交流がない状況であった。「子どもの最善の利益」という視点では同じであり「こども園」と「幼稚園」の施設の種類を超えた協力を実現でき、連携をとり共に小学校との連携接続を進めることができたことが大きな成果であるとする。

顔を合わせ、意見交換を行い、互いに公開保育を行い参加することで校区内の園を知る目的が達成され「顔の見える関係性」が構築されたことは今後につながると思う。

2. 交流について

【子ども】 子ども同士の交流として「年長さんを迎える会」があった。小学校で実際に過ごした経験や、1年生と一緒に行動した子ども同士の交流経験から就学への期待が高まる声が多く聞こえてきた。期待と不安が入り混じることもあると思うが、この経験は子どもたちの就学のスタートにとって大きな宝物となるだろうと思う。また、校長が園で子どもと一緒に過ごした時間があったことも、就学後に「知っている先生がいる」「校長先生と一緒に遊んだことがある」安心感につながると思う。

【大人】意見交換会（カフェミーティング含む）等で、1年担任と年長担任が対話する機会を持った。児童の様子や、疑問に思っていることを直接話すことで互いの理解が深まった。理解が深まると、保育者の意識も変わり、行動の変化につながった。また、乳幼児期に育まれたことが小学校生活の土台となっていることが確認できたことも大きな成果である。

子ども同士、教職員どちらの交流も連携接続を行う上で大切であると実感した。

3. コーディネーターの必要性

星稜大学教授 開仁志氏に連携接続を行うために助言をいただき、研修会講師や様々な活動にも参加いただいた。3園合同で新たに連携接続を始めるにあたり、とても心強い存在であった。園と学校の間にはコーディネーターがいるとより円滑に連携接続を進めることが出来て継続にもつながると感じる。コーディネーターの存在は、連携接続を進める上で必要だと実感している。

4. 連携・接続の必要性

「かなざわ幼児教育みちしるべ」事業を利用させていただき、開設3年目の小学校と、3園合同での連携接続を始めることができた。アンケート結果からもわかるように、小学校も園も連携接続の必要性を実感し、今後も継続することが大切であると感じている。

今年度の活動を通し、「子ども」を中心に据え、対話を重ね、継続し理解を深めることが連携接続の質を高めることに繋がっていくのではないかなと思う。今後も継続して行うことはこどもの育ちにとっても重要だと感じている。

幼児教育センターの皆様には、連携接続の活動と一緒に参加してもらえたことを感謝する。それぞれの立場からの意見交換を行うことは、とても貴重な機会でもあり学びにつながった。

【令和7年度の活動を終えての所感】

今年度新たに3園と小学校の連携接続を「かなざわ幼児教育みちしるべ」事業を利用させていただきながら始めた。

架け橋期は子どもにとって生活環境や「遊びを通した学び」から「教科としての学び」へと学びの形が大きく変わる時期で、期待はあるが不安や戸惑いが生じやすい状況である。しかし小学校と地域のこども園、幼稚園がともに手を取りあうことで、少しでも子どもたちが安心して小学校生活を送ることに繋がると感じている。

今年度は「見る」「知る」ことから始めた連携接続だった。

初めての顔合わせで校長より全市一斉学校公開週間や石川教育ウィークを紹介され、参加した。6月の学校公開では子どもたちが小学校生活を落ち着いて過ごす姿があった。小学校の環境や授業の様子等を見て、就学後の子どもの学校生活の見通し（一部）を持つことが出来た。子どもの姿を「見る」ことの重要性を感じた。

また、小学校教員も公開保育等の来園で園を知る機会もあり、互いに「見る」ことが出来たことがよかった。また、参観の視点を星稜大学教授 開先生から教えていただいたことで学びが深まった。

意見交換会やカフェミーティングは大変有意義な時間であり、お互いに積極的な意見交換をすることで様々なことを「知る」ことが出来て学びが深まった。「こども」を中心に据えると、施設や立場の違いはあるが、対話を通し互いの理解や学びが深まった。教員の子どもへ向き合う姿勢や工夫を知ることが新たな気づきであった。また小学校と園との共通点や違いにも気づくことが出来た。乳幼児期の「今」や「遊びを通した学び」を日々大切にしていこうと強く思った。

小学校開設3年目より子どもの交流「年長さんを迎える会」が始まった。園児にとって小学校を「見て知る」機会となり小学校が楽しみな場所になったのではないかと思った。

大人も子どもも「見る・知る」は単なる交流ではなく、子どもを中心とした連携接続の取り組みを実現する切り離せない重要なポイントになったと感じている。

小学校とこども園、幼稚園も「こども」を中心に考え連携接続することが、子どもの育ちが連続的につながり、安心して就学を迎えられるようになると感じている。

今年度の活動を通して「顔の見える関係性」が構築され、連携接続が大きく進みとても嬉しく思う。

今後も互いの専門性を尊重しながら情報共有や交流を通して、さらに子ども理解を深め連携接続の質が向上していけるように努めていきたい。課題はあるが、子ども一人一人の成長を切れ目なく支える連携接続になることを願い、今後も取り組んでいきたいと思う。

別紙 1 主な取り組み内容・経過～内容と参加人数～

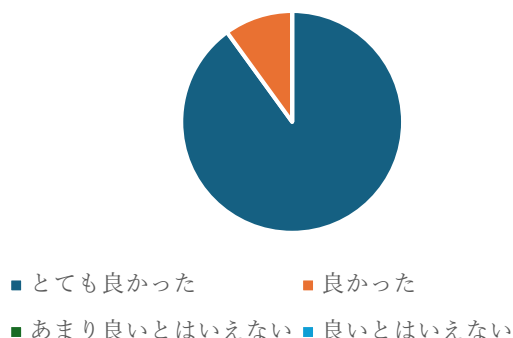
No.	実施内容	参加人数等
1	4 月 2 園打合せ ～幼保小連携・接続に向けて 1	太陽丘 2 田上 2
2	4 月 3 園打合せ ～幼保小連携・接続に向けて 2	済美 1 太陽丘 2 田上 2
3	4 月 朝霧台小「授業参観」参観	太陽丘 3
4	5 月 朝霧台小学校と 3 園の打合せ ～顔合わせ、連携・接続に向けて	済美 1 太陽丘 2 田上 2 朝霧台小 2
5	5 月 朝霧台小学校「運動会」見学	太陽丘 2 田上 4
6	5 月 開氏と 3 園の打合せ ～幼保小連携・接続に向けて 3	済美 1 太陽丘 2 田上 2 星稜大 1
7	6 月 学校公開参加 3 園意見交換会～学校公開参加感想等	済美 3 太陽丘 4 田上 4
8	6 月 小学校と 3 園合同意見交換会 ～小学校児童の様子等について	済美 3 太陽丘 4 田上 4 朝霧台小 4
9	6 月 幼児教育センター主催 幼保小合同研修 小学校教育との接続・相互理解	済美 1 太陽丘 1 田上 1 朝霧台小 1
10	8 月 幼保小合同カフェミーティング ～講義（星稜大教授 開氏）と意見交換会	済美 3 太陽丘 4 田上 4 朝霧台小 5 幼児教育センター 3 星稜大 1
11	8 月 小学校職員（校長等）による 3 園訪問	朝霧台小
12	10 月 幼児教育センター主催 幼保小連携強化研修（小学校体験）参加 ～ 1 日体験・授業体験・振り返り	済美 1 太陽丘 1 田上 1 朝霧台小
13	10 月～11 月 3 園公開保育 （10 月 済美/田上 11 月 太陽丘） ～校区内幼児教育施設を知る	済美 太陽丘 田上 朝霧台小 幼児教育センター 星稜大
14	10 月～11 月 3 園公開保育後の意見交換会 （10 月 済美/田上 11 月 太陽丘） ～公開保育後に意見交換を行う	済美 太陽丘 田上 幼児教育センター 星稜大
15	11 月 石川教育ウィーク	済美 太陽丘 田上
	石川教育ウィーク後の 3 園意見交換会	済美 2 太陽丘 4 田上 1
16	11 月 朝霧台小学校「年長さんを迎える会」参加	済美 園児・保護者 太陽丘 園児・職員 3 田上 園児・職員 2
17	1 月 朝霧台小学校と 3 園の打合せ ～ 1 年の振り返りと次年度に向けて	済美 2 太陽丘 2 田上 2 朝霧台小 2 幼児教育センター 1 星稜大 1
18	1 月～3 月 朝霧台小学校と情報交換 （年長児引継ぎ）	済美 太陽丘 田上

別紙2 主な取り組み内容・経過～アンケート～

幼保小連携 カフェミーティングアンケート（2025/8）

参加者数 20 アンケート回答者 20 （小学校、こども園、幼稚園、幼児教育センター）

1.参加感想

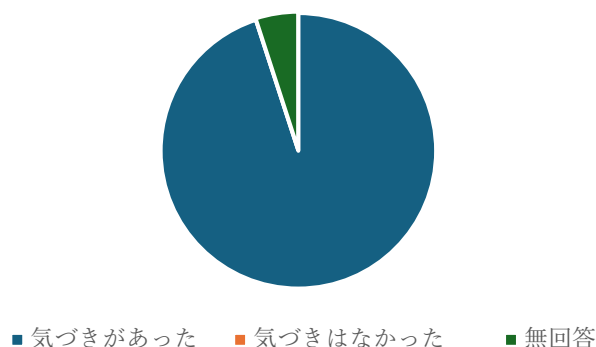


1.参加してみて

とても良かった	90%
良かった	10%
あまり良いとはいえない	0%
良いとはいえない	0%

参加者全員が、参加して良かったと感じていることが分かった

2.幼保小の違いや共通点についての気づき



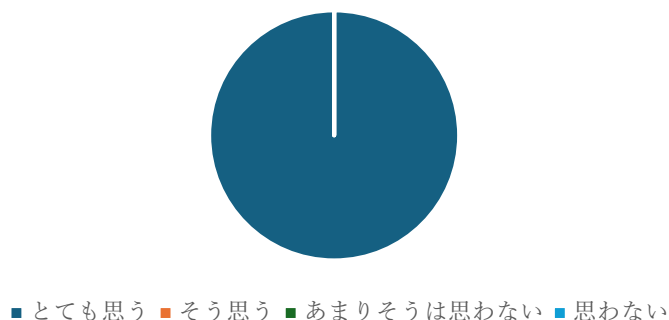
2.カフェミーティングで幼保小の「違い」や「共通点」について気づきはありましたか

気づきがあった	95%
気づきはなかった	0%
無回答	5%

それぞれの立場は違うが、お互いに「違い」や「共通点」に気づくことができたことが分かった

※詳細は下記参照

3.幼保小連携は必要か

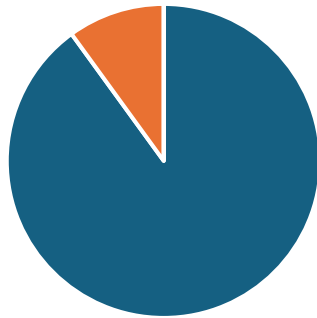


3.幼保小連携は必要だと感じていますか

とても思う	100%
そう思う	0%
あまりそうは思わない	0%
思わない	0%

参加者全員が必要性を感じていることが分かった

4. 幼保小の職員交流は必要か



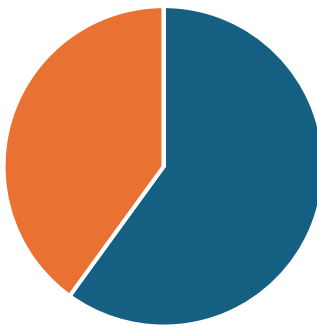
■ とても思う ■ そう思う ■ あまりそうは思わない ■ 思わない

4. 幼保小の職員交流は必要だと感じていますか

とても思う	90%
そう思う	10%
あまりそうは思わない	0%
思わない	0%

職員交流の必要性を感じていることが分かった

5. 幼保小の子どもの交流は必要か



■ とても思う ■ そう思う ■ あまりそうは思わない ■ 思わない

5. 幼保小の子どもの交流は必要だと感じていますか

とても思う	60%
そう思う	40%
あまりそうは思わない	0%
思わない	0%

子ども同士の交流の必要性を感じているが職員同士の交流よりはやや低いことが分かった

【カフェミーティングで幼保小の「違い」や「共通点」について気づきはありましたか】※一部抜粋

- ・子どもを中心として考えているところが共通点だと思った
- ・幼保と小は目指すものが違う。でも、方向性は同じなのだと思います
- ・幼児期に大切にしていることを小学校でも大切にしてくれることがあり安心した部分もあった
- ・子どもが出会った「なぜ」を先生からではなく、子ども自身で調べ解決していく共通点
- ・時間の使い方が異なり、保護者が柔軟性を求めてきたりする背景がわかった
- ・困っていることは共通なことが多かった

【その他】※一部抜粋

- ・とても有意義な交流会となり、幼稚園こども園での過ごし方、かかわり方が影響してくることがわかった。
- ・小学校や他園での話、小学校までに大切にしていけることは何なのかを改めて知ることが出来て勉強になりました
- ・園の先生方と共通の悩みが感じられ、手を取り合う大切さを感じた
- ・幼保小連携に向け、対面で意見交換できる場（それぞれの声を聴くこと）がありとても良かった
- ・普段の小学生や授業の様子を聞くことが出来てとても良かったです。年長担任として場が大変貴重だったし、気づきの多い学びある場となりました
- ・幼保でしっかり大切に育てられた子どもたちが小学校に入学してきているのだと改めて感じました

幼保小連携 年長担任アンケート（2025/12）

参加者数 5 アンケート回答者 5 （こども園、幼稚園の年長担任）

1. 連携・接続を通して、変化はありましたか

	変化を感じた	変化を感じなかった
小学校（教職員含む）への思いの変化	5	0
子ども（園児・小学生）への思いの変化	5	0
自分自身やクラス等、行動等の変化	5	0

『小学校（教職員含む）への思いの変化』 ※一部抜粋

- ・顔見知りになったことで話しやすくなり、連携が以前よりとりやすくなったように感じた。
- ・小学校の先生を近くに感じた
- ・授業（45 分）が 15 分単位で区切る等、工夫がされていることを知り、教科の 1 つでも様々な視点から学んでいることを知れてよかった。こども園と共通している部分も多々あった。

【子ども（園児・小学生）への思いの変化】 ※一部抜粋

- ・就学に向けて、先を見通して責任感が高まったように感じた。
- ・特別に違うわけではなく、繋げていくことが大切だと感じた
- ・学校公開では、卒園児の成長した姿や様子を見ることが出来て嬉しく思った。就学に向けて「〇〇をさせなければならない」ということはあまりないのではないかと思った
- ・幼児期の経験を小学校での学びにつなげ、子どもが負担なく小学校での生活を過ごせるよう保育を行っていきたいと思いました

【自分自身やクラス等、行動等の変化】 ※一部抜粋

- ・小学校へ向けてどのような事を目指すのか見通しを持ちやすくなった
- ・他園でしている事に新しい発見を感じ意欲を持てた
- ・子どもたちで話し合うこと、助け合うことを改めて大切にしたいと思い、その機会を作り見守った

2. 連携・接続を通してよかったこと、今後に期待したいことがあれば教えてください

【良かったこと】 ※一部抜粋

- ・今後も小学生の先生達と話し合う場があると、連携がとりやすくなるように感じた。
- ・園の子どもたちの未来の姿に見通しが持てた
- ・実際に様子を見たり話しあうことで互いにイメージが持ちやすく勝手な思い込みがなくなったと思う
- ・小学校側と園側でお互いの子どもの姿を見ながら援助方法や課題取り組みなど共有する場があり良かったと思う

【来年度以降に期待したいこと】 ※一部抜粋

- ・今年度行った連携を今後も続けていけると嬉しいです
- ・今年度行った小学校の先生達との懇談や話合いや 3 園との話し合いの時間が今後も継続してもらえるとう嬉しいです
- ・お互いに情報交換をすることはいいなと思います
- ・年長児も学校公開等で様子を見ることができれば、イメージをもつことができさらに良いと思った

別紙3 主な取り組み内容・経過～写真～

6月学校公開後 3園意見交換会



8月 カフェミーティング



11月公開週間意見交換会



11月年長さんを迎える会

